ケース 2

2020 年東京オリンピックが終わり、2 年が経つ。

五輪開催年の前年の 3 月 31 日付で夫は 9 年間勤めた私立高校を退職した。その後の 3 年間は激動だった。2010 年に大学を卒業後、あなたは実家のある大阪市内の公立中学校で 7 年間国語を教えていた。夫は兵庫県内のミッション系私立の一貫校で英語教師をしていたため、大阪か神戸でのデートでは同じ信仰を持つ教師同士、教育について、信仰について、互いの教会について話し合うことが多かった。付き合っている期間、夫の勤めている学校で生徒の自殺があった。世間的には「心を病んでの自殺」ということになっていて、あなたもそう信じていた。いじめの主犯格の親が議員や学校の理事とつながりのある有力者だったため、いじめを告発する遺書が「もみ消された」のだという事実を数年越しに夫から聞いたとき、あなたは正義感から来るくやしさに身体が震えた。現在 80 歳になる私立高校の理事長は自らの任期をほぼ永続的に延長可能に変更し、それに反対する理事たちを斥けて「独裁体制」を築いたのだという。重要な役職には理事長の親族や知己の友人が居座る。もはや「学校の私物化」ともいえる状況だが、理事や校長を含め、人事権を握られている職員のなかにこれを公に指弾できる者は誰もいない。そのような中、夫は 3 年前に静かに学校を退職した。相当に悩んだことは、その時期の彼の痩せ方と、頭頂部にできた十円ハゲを見てよく分かった。いつも疲弊していて、口数も少なく、思い詰めたような夫を見るのに耐えかねたあなたは、夫が退職したいと言ったとき、二つ返事でそれをサポートすると伝えた。夫は塾のアルバイトと教会のチャーチスクールでの英語教師の掛け持ちで家族を支えていくと言ってくれた。一人目の出産を控えていたので、あなたが働くという選択肢はなるべく取りたくないから、と夫は言った。週に 4 日勤務のチャーチスクールの月収の手取り 5 万円は支払いが遅延することもあり、月～土曜日の夜の塾講師と併せて手取り約 17 万円が世帯収入となった。30 代の子持ち世帯として生活が苦しくなるのは予想できたので、都市部のマンションから交通の便が悪い郊外の木造アパートに引っ越した。

夫が退職を決めたことを大学時代から付き合いのある親友に相談すると、「それはリスクが高すぎるんじゃないの？」と反対された。「今の時代、安定した収入があるというのは大事だと思う。私立高校の英語教師なんて、誰もが羨む職場よ。手放すのはもったいなさ過ぎる。苦労するのはあなたなのよ」と、思っていた以上に熱心に止めようとする親友にたじろいでしまった。夫の状態をよく知っていた両親は応援してくれたが、大学時代に通っていた教会の牧師は反対した。人に相談すればするほど混乱するので、2 泊 3 日で、「祈りの家」に泊まり込んで神と向き合った。3 日目にヘブル書 11 章を読んだとき、「どこへ行くか知らずに旅立った」アブラハムに従ったサラに思い至り、夫の決断を支持することに決めた。ざわつく気持ちは止み、心には平安があった。

転職した当初、夫は本当に幸せそうだった。体重も増え血色も良くなり、十円ハゲも消え

ていた。「教えることの喜び」を感じている、付き合っているころの生き生きした夫が戻ってきたことを、あなたは神に感謝し、夫の天職は教えることなのだと確信した。生活は苦しかった。子どもが生まれ出費がかさむ中、収入が激減したのだから当然だ。最初の 1 年間はお互いの「正規職員時代」の貯金を切り崩しながらやりくりした。10 年落ちの自動車に乗り、知り合いとの「お茶会」程度の出費も家計にダメージな上、ママ友たちとの生活レベルの違いから来る「こちらが勝手に感じてしまう劣等感」が嫌で、次第に足が遠のき、付き合うのはチャーチスクール関係の人ばかりになった。それでも 2 年間、夫はダブルワークをしながらも子育てを積極的に手伝い、生き生きしていたし、あなたは初めての子育てを楽しみながら、夫を支えた。今年、2 人の貯蓄が底をつく頃、2 人目の女の子が生まれた。

チャーチスクール 3 年目の今年、あなたの夫が心療内科に通うようになるとは当初は思ってもみなかった。あんなにも楽しそうにチャーチスクールで教え、NPO 法人代表理事である教会の主任牧師と二人三脚で運営にも携わっていたのに、昨年ぐらいから思い悩むことが多くなった。聞けば、授業自体は楽しんでいるが、チャーチスクールと教会の運営についての不満が溜まっているということを少しずつ話してくれるようになった。夫は言った。前にいた私立高校は腐っていたが、曲がりなりにも「定款」があり、それに従って意志決定されたし、予算や会議内容も公開されていた。しかし教会には「ガバナンス」という概念がまったく欠けている。お金の使い方や意志決定プロセスが不透明で、牧師の「気まぐれ」で重要なことが急に決まったり変わったりする。それが「神から聞いた」という牧師ならではの理由で行われるので、周囲は反対できないし、それに反対することは神に反対することだ、というような空気がある、と。意を決して主任牧師にこのような問題点を話したところ、主任牧師は急に夫と心理的距離を置くようになり、運営についてほとんど何も夫に相談することがなくなり、しばらくした頃、「君は英語の授業だけしてくれたらいい」とハッキリ言われたという。「彼は『霊的な問題』を抱えている」と他のスタッフに牧師が言っているのを間接的に聞いたりもした。夫の目から見て、チャーチスクールの運営には問題がありすぎるが、牧師が「教会スタッフ」や、研修中の伝道師、主任牧師の父親が牧師だった時代からの古株の役員といった、「イエスマン」だけで周囲を固め、苦言を呈するよそ者を「ゆるやかに排除」していく様子に、夫は「あれじゃあ、あの高校の理事長と同じじゃないか！」といって新婚のとき 2 人で選んだ思い出のリビングの椅子を蹴った。後にも先にも、夫が家の中で「モノに当たる」ほど感情を露わにしたことはなかった。

高校の時は「辞職する」という選択肢があったが、ダブルワークでギリギリの生活をしており、「信仰共同体」と「職場」が一体になっている状況でチャーチスクールから手を引くのは、家族にとって衝撃が大きすぎるとあなたは思ったし、夫も同じ考えだった。「今は我慢してやってみるよ」といって夫が夕方からの塾講師の仕事に出かけたあの日から半年後、夫の体調に異変が現れ始めた。体重が減り、無気力になっていき、ついには朝布団から起きることが難しくなった。心療内科に行く日、夫は玄関で泣いていた。悲しいからではない、情けないのもあるけれど、涙がなぜか出てしまうんだ、という夫を見送りながら、あなたは

これから待ち受ける家族の運命を思って天を仰いだ。

夫は鬱病と診断され、薬を飲みながらチャーチスクールと塾講師を続けた。本当は完全に休養することが必要なのだけれど、と医者に言われたが、現在の我が家の状況を考えると、こうするほかない。このことをいったい誰に相談して良いか分からず、「夫が鬱病になった人」のブログやネット上のコミュニティで情報収集・意見交換を行うようになった。とにかく休むことが大切だと知り、大阪の両親にかけあって子育ての支援を頼み、あなたは中学校の産休代理の臨時職員の仕事を始め、夫が塾講師の仕事を辞められるようにした。夫の健康状態は上向いたが、生活は苦しいままだし、夫がモヤモヤを抱えたままでチャーチスクールの仕事を続けることはあまり良くないように思えた。夫はまだ 30 代だ。探せばかならず働ける職場はあるし、今の労働環境より悪くなることなどもうないだろうとも思えた。ただ、現在は病気の症状があるので無理に動かない方が良い。教会の人に相談したいが、「牧師と折り合いが悪い人」は、教会の中であまり重要ではない位置づけになるという空気があるので、普段あまり教会にコミットしていない信徒か、あるいは最近教会に来はじめた未信者とよく話すようになった。彼らと話すのは気が楽だったし、「教会に深くコミットしていないからこそのバランス感覚」を備えているようにも思えた。しかし、彼らがときどき口にする「カジュアルな信仰」とか「あまり信仰に真剣にならないほうが良い」「教会にコミットしすぎるのは問題」などの言葉に、あなたの心はチクチクと痛んだ。「そうじゃない」、と叫びたくなった。「あなたたちは何もわかっていない！」。怒鳴りたいのを抑えて適当に話を合わせた。かといって、牧師の周りにいる「献身した人は必ず幸せになる。幸せになれないのは献身が足りないから」という薄っぺらな世界観に生きている人々とは、そもそも話したいとも思わない。あなたと夫は次第に、今の教会を離れること、そして新しい環境でやり直すことについて話し合うようになった。あなたの両親の実家近くに住み、あなたのよく知る母教会に連なるならば、そこまで波風は立たないだろう。今の教会と大阪の教会は同じ教団に属し、牧師同士も親しいのは心配だが、今の場所にとどまることはもう考えられない。問題は大阪に、夫が喜んで働ける新しい職場が見つかるかどうかだ。

両親と夫に頼み込んで、かつて行った「祈りの家」に一泊し、結婚５年間を振り返った。自分の「人生のスゴロク」が「振り出しに戻る」というマスに止まったような感覚を覚えた。新婚当初と違うのは、これから夫が無職になろうとしていることと、子どもが 2 人いること、そして「教会への無邪気な期待」がもはや消えていることだけだ。もういちどアブラハムの召命の箇所を読んだ。「どこへ行くか知らずに旅立った」この旅は失敗に終わったのだろうか？いや、そうではない。私たち家族は、たった今「天幕生活」を始めたばかりなのかもしれない。家で待つ夫に何と声をかけようか考えながら、あなたは祈りの家を後にした。

設問１．この主人公の行動について、批判的に議論してください。
設問２．この主人公はこの後どう行動すべきなのか議論してください。